農作物生産情報（令和８年 11 月）

気　象

（令和８年 10 月 22 日　仙台管区気象台発表　東北地方１か月予報より）

・気　　温：平均気温は、平年並又は高い確率がともに 40%である。
・降 水 量：平年に比べて曇りや雨の日が多く、降水量は多い確率が 50%である。
・日照時間：平年並又は少ない確率がともに 40%である。

畑　作

◆大　豆◆

収穫は計画的に行おう！

１　収　穫

（１）刈取時の水分は、以下を参考にする。
　ア　子実水分 20%以下（爪を立てると少し跡が残る程度）
　イ　茎水分 50%以下（爪でこすっても表皮が剥げない程度、手でポキッと折れる）
（２）降雨後は、茎や莢が十分乾燥したことを確認してから作業を行う。
（３）コンバイン収穫時、土のかみ込みによる汚損粒が発生しないよう注意する。
（４）収穫後は速やかに乾燥を行う。

２　乾燥・調製

（１）子実水分は 15%以下に調製する。
（２）紫斑病、マメシンクイガの被害粒を除去する。

◆ 小　麦 ◆

越冬前の適正管理で生育量を確保しよう！

１　雪腐病防除

11 月中旬から下旬に、速やかに薬剤が乾くような気象条件下で散布する。

２　麦踏み

（１）時期は 10 月下旬～11 月中旬、あるいは茎立ち前の３月下旬～４月上旬とする。
（２）早播きや高温などにより茎葉が伸びすぎた場合や、凍霜害の恐れがある場合には、トラクタの車輪又はローラー等で踏圧作業を行う。
（３）ほ場が多湿の場合は、生育が阻害されるので行わない。

りんご

熟度はやや進んでいる。適期収穫に努めよう！

盗難に注意しよう！

10月11日現在のふじの果実肥大（横径）は、板柳町五幾形（県生育観測ほ）で9.3cmと平年より0.5cm大きかった（平年比106%）。ふじの熟度（りんご研究所：黒石市）は、平年よりやや進んでいると見込まれる。

1　晩生種の収穫

（1）適期収穫

晩生種は無袋ふじが収穫期となっている。収穫の遅れはつる割れの発生増加につながるので、適期に収穫を終えるようにする。

（2）果実疫病防止対策

ア　収穫直前まで

反射シートを片づける際には土を飛散させないようにし、りんご樹にかけて干さない。収穫用のかごや箱の土は、あらかじめ洗い落としておく。

イ　収穫時

降雨時の収穫は行わない。やむを得ず収穫する場合は、果実に泥が付着しないように注意する。特に、はしごを移動する際、手に泥が付きやすいので、はしごを動かした後は十分注意する。

落果や収穫の際に落とした果実は、収穫果に混入しない。

ウ　収穫後

収穫果は、園地に野積みしない。

（3）選果時の注意

シンクイムシ類の被害果を流通させないために、食入痕も見分けられるよう十分に明るい場所で行い、徹底して選別する。

シンクイムシ類は、がくあ部（尻）やつる元から食入することが多い。脱出や糞の排出は赤道部からの場合が多い。がく片やつるの陰になっているところから食入又は脱出することもあるので、注意深く確認する。

また、つる割れ果等は、出荷先の基準により選別する。

◇モモシンクイガの被害果◇

（（地独）青森県産業技術センターりんご研究所提供）

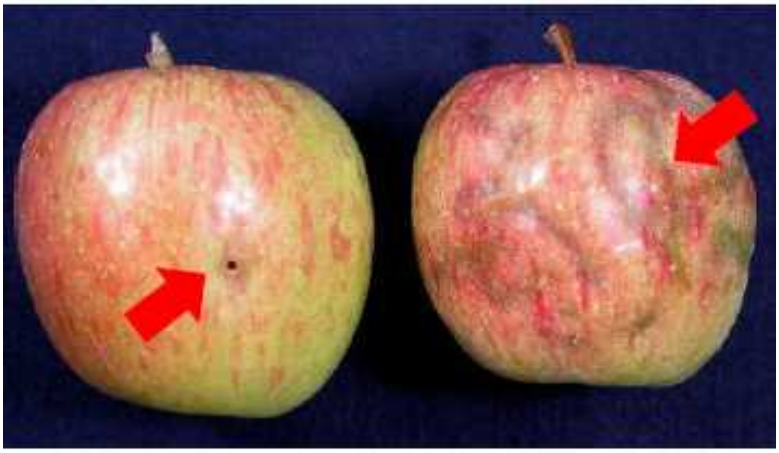


食入されると滴が出る





滴は白く乾燥して、しばらくの間は、果皮上に残る



脱出痕（左）と潜入(果皮近くを食い荒らした)痕（右）

選果時のポイント

- 食入されやすい果実の下半分は、重点的に確認する。
- 脱出痕は赤道部に多い。
- がくの近くやつる元は見つけにくいので、注意する。

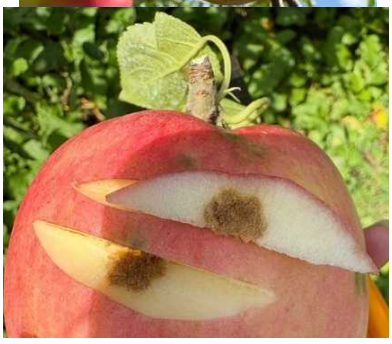
◇カメムシの被害果◇





吸汁された部位がくぼみ、奇形果となる。８～９月の被害は吸汁部位を中心に５㎜くらいの大きさで褐色にくぼむ。





収穫時期が近づいた果実では吸汁部位が弱くくぼみ、表皮から数㎜離れた部位がスポンジ化する。

２　腐らん病対策

収穫時につる折れ、つる抜けとして残ったつるから病原菌が侵入するので、つるが果台に残らないように丁寧に収穫する。つるが残った場合は必ず果台から取り除く。

発生が多い園地では、採果痕などからの感染を防止するため、収穫後できるだけ早めに、トップジンM水和剤 1,000 倍又はベンレート水和剤 2,000 倍のいずれかを特別散布する。

３　黒星病及び褐斑病の対策

病原菌の密度を下げるため、伝染源となる被害落葉は、かき集めて適正に処分するか、土中にすき込むなど耕種的防除対策を積極的に行う。

４　収穫後の園地管理

（１）雪害防止対策

根雪前に、雪害を受けそうな枝への支柱入れや不要な枝の剪去、幼木の枝の結束などを行う。

（２）野ネズミ対策

ア　園地を清掃し、餌となる果実や作物の残さなどは片づける。

イ　草生、敷草等を行っている場合は、野ネズミが巣を作りやすいので積雪前に幹の周辺を清耕にしておく。

ウ　特に被害を受けやすい苗木及び若木は、地上１m位の高さまで（積雪の多いところではさらに上まで）樹幹に金網や合成樹脂のプロテクターなどの被覆資材を巻きつける。

エ　殺そ剤による駆除は毒餌を食べた場合にのみ効果があるので、食いつきが悪い場合は、殺そ剤を含まない餌を与えて２～３日喫食させた後に毒餌をおく。なお、殺そ剤や忌避剤を利用する際には、使用基準を遵守する。

（３）苗木の植付け、補植

植穴には、堆肥、苦土炭カル等の土壌改良資材を施用する。

（４）酸性土壌の改良

酸性土壌の園地では、苦土を含む石灰質肥料を施用後、下層への浸透を図るため、５㎝程度の深さで軽く耕うんする。長年、耕うんしていない園地では、断根による悪影響を避けるため、晩秋に実施する。

特産果樹

◆ぶどう◆

貯蔵中の品質管理を徹底しよう！

１　スチューベンの貯蔵

（１）灰色かび病菌等による腐敗を防ぐため、貯蔵温度を０℃付近に保持するとともに、被害果は貯蔵中でも取り除く。

（２）被害果を取り除く時期の目安は、穂軸、果軸の萎縮や褐変が軽く見え始め、１果当たり１～２粒が脱粒し始めた頃である。

２　剪　定

（１）剪定は、落葉後早めに行う。

（２）架線の巻きひげや枯死枝は、晩腐病や黒とう病の越冬源となるので必ず除去し、処分する。

（３）剪定方法には長梢剪定と短梢剪定があり、スチューベンは長梢剪定、シャインマスカットはいずれでもよいが短梢剪定の方が容易である。

３　収穫後の園地管理

（１）収穫後は園地を清掃するとともに、酸性土壌の改良や野ネズミ被害の防止、雪害の防止等の対策を行う。

（２）黒とう病や晩腐病が発生した園地では、被害葉・新梢などが翌年以降の伝染源となるため、丁寧に取り除き、適切に処分するとともに、来年の休眠期散布を必ず行う。

◆おうとう◆

野ネズミとコスカシバ対策で園地の健全化を図ろう！

１　積雪前の園地管理

積雪前に園地を清掃するとともに、酸性土壌の改良や野ネズミや雪による被害の防止等の対策、補植を行う（りんごの項を参照）。

２　コスカシバ対策

被害が見られる園地では、来年の開花期までにフェニックスフロアブル 500 倍を樹幹部に、薬液が十分かかるように手散布する。

野　菜

こまめな温度管理により生育量の確保に努めよう！

◆パイプハウスの風雪害の防止対策

（1）冬期間、被覆資材をかけっぱなしにするハウスでは、風や雪による倒壊を防ぐため、補強を行う等の対策に努める。

（2）屋根から滑落した雪がハウス間へ蓄積し、ハウスの肩部分より高くなるとハウスの倒壊につながりやすいので、除雪をこまめに行う。

※具体的な強風・大雪対策技術は右のＱＲコードから参照

◆冬期間の温度管理◆

（1）内張（２重カーテン）やトンネル、不織布などで保温し、最低気温が５℃以下にならないようにする。

（2）ハウスの内張は毎日開閉し、できるだけ日光が当たるようにする。

（3）風のない日中（午前 10 時～午後３時を目安）に換気すると、ハウス内の湿度が下がり、凍害を受けにくくなる。

◆ほうれんそう・こまつな◆

１　栽培管理

（1）株が混んでいる場合は、発芽が揃った頃と本葉２枚の頃に２回程度、間引きを行う。

（2）基本的に追肥やかん水は必要ないが、かん水は、土壌が乾きすぎたり、生育が劣るような場合に、暖かい日の午前中に行う。

２　収穫・調製

25 ㎝前後で収穫し、根を切りそろえる。

～ 農業保険（農業共済及び収入保険）への加入について ～

自分にあったセーフティネットに加入し、農業経営に万全の備えを！

○農業共済は、自然災害等により農作物・畜産・園芸施設に損害が生じた場合に補填される制度です。

○農業経営収入保険は、自然災害に加え、農産物の価格低下などにより収入が減少した場合に補填される制度です。加入には、青色申告の１年分以上の実績が条件となっています。

※　詳しくは、お近くの農業共済組合にお問い合わせください。

登録品種に関する注意喚起

○登録品種の種苗・収穫物等を利用するには、原則として権利者の許可が必要です。

・育成権者の許可を得ずに、自家採取した登録品種の種苗を近所の農家等に配布することは種苗法に違反します。

・他都道府県で開発された品種によっては、作付けできる都道府県が限定されている場合があります。

○登録品種の確認は品種登録ホームページ（https://www.maff.go.jp/j/shokusan/hinshu/）で行い、正規のルートで種苗を入手しましょう。

○育成権者を侵害すると民事請求を受けたり、刑事罰を科される場合があります。

ツキノワグマ出没警報発令中！

○ツキノワグマ出没警報発令中です。

○農作業は、１人での作業を避け、ラジオやクマよけスプレーを携帯するなど、人身被害の防止に努めましょう。